



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
令和6年度学校だより
第6号
令和6年8月29日発行

努力と支え合いで 充実の2学期に!

暦(こよみ)の上では暑さが収まるという意味の「処暑」を過ぎましたが、まだまだ暑い日が続きそうです。本日より第2学期が始まり、夏休みを元気に過ごした子どもたちの姿が学校に戻ってきました。夏休み中には子どもたちの健やかな成長のため見守っていただきました保護者の皆様、地域の皆様に感謝いたします。



<4年生:みどりのカーテン>

この夏の大きな話題の一つにパリオリンピックがあります。このオリンピックで個人2連覇を達成した柔道の阿部一二三選手の座右の銘は「努力は天才を超える」だそうです。

『絶対に無駄な努力ってないと思いますし、もし何かがかなわなかったとしても、その努力してきたことってというのは絶対に無駄にはなっていないと思うので。やり続けることってというのは大切だと思うので、努力はしてほしいというか、努力は裏切らないと僕は思っています。』(7月29日スポーツ報知記事抜粋) この言葉から、大舞台で金メダルに輝いた阿部選手を支えたのは、日々の練習と計り知れない努力だったのだらうと思います。才能よりも努力でつかんだ勝利こそ大きな自信になることも阿部選手の堂々とした姿からうかがえます。

不揃いが「総持ち」で支え合う

始業式では、この話に加えて、宮大工として国宝に指定されている薬師寺金堂などの再建に副棟梁として活躍された小川三夫さんの著書『不揃いの木を組む』(草思社)の話をしました。

小川さんは、古代寺院の姿を残す法隆寺や薬師寺の塔を内部から見ると、「不揃いな材木」でつくられており、それらが支え合ってこそ、千年を超える塔が存在すると言われています。建築物は場所によって、かかる力の強さや方向が異なるため、それぞれの木材の強度に合わせて組み合わせます。その技術を宮大工の世界では、「総持ち」というそうです。異なる木材を組み合わせるこの「総持ち」の技術は、学校や社会で人が育つ環境に似ている。『総持ち、みんなで持つ。不揃いこそ、安定感があるし、強い。』と言われています。

小川さんの言われる「不揃い」とは、それぞれの「個性」のことではないでしょうか。一人一人の持って生まれた個性は、まさに不揃いです。学級、学校には、誰一人として同じ子どもはいません。違うからこそ、互いの持ち味を發揮してよいところを学び合うことができるし、みんなで支え合うことで安定感のある強い集団になります。

2学期には、運動会、持久走大会、大縄大会、舞鶴市合同音楽会(6年生)など、自分の力を伸ばす機会となる行事がたくさんあります。また、一人の力ではできないことも、みんなの力を合わせることでできることもあります。これらの行事に「総持ち」で支え合って、日々の学校生活を充実させていきたいと思います。

今学期もご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



校長 西井 佳寿美
教職員 一同



熱中症対策のさらなる強化について

6月28日に「コドモン」にて標題の件について配信しました。2学期もまだまだ暑さが続くことが予想されることから児童の安全を守るために、「熱中症対策ガイドライン(改訂版)」をもとに、引き続き熱中症対策を講じてまいります。ごご家庭におかれましても、次のようなご協力をお願いいたします。

- 1 お茶を多めに準備してください。
- 2 汗拭きタオルを準備してください。
- 3 登下校の際に帽子をかぶらせてください。
- 4 睡眠時間を十分に取らせてください。

